

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	PARCふくしま		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンでの個別療育・保護者支援・保育所等訪問支援で包括的な支援が期待できる	療育に入ったスタッフが保護者に対してFBも行えるため、成長や利用児の強みを共有できる。また希望者には保育所等訪問支援もっており、療育と併用利用ができるため、個別・家庭・集団とそれぞれの場所での利用児の様子を共有できる。	より支援の形や方向性が明確化するように、スタッフ間はもちろん、保護者とも連携を取っていく。訪問支援をご利用の際は、訪問先の園の先生方とも今の児に必要な支援を共有し、具体的にアクションを起こしていく。
2	多職種連携にて多角的な視点での支援が期待できる	保護者の悩みや、本児の様子に関して多職種での視点を伝えることができ、またアプローチの仕方も多職種のため多岐にわたっている。	訪問看護とも連携を行い、定期的なケースカンファレンスなど取り入れることで、より多職種での意見を参考にして、支援のアプローチを上げたり、多角的な視点から連携を行っていく。
3	毎月季節に合わせたイベントを行っている	集団療育は不定期で行っているものの、在籍児童の人数が多いため、全ての利用児が集団療育に参加することは難しい。よって多くの利用児に楽しんでもらえるよう、また療育のバリエーションを上げられるように毎月制作や運動のイベントを実施している。	都心部という立地を生かした集団療育など、従来の形にとらわれない集団療育の形を検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主体性を持った療育と自由遊びの違いが伝わりづらい	スタッフはみな意図を持ったアプローチを行っており、それぞれの利用児に対しての課題も把握しているが、一見すると自由遊びをしているように見えるため、保護者への説明や理解が必要になってくる。	新規利用者には特に丁寧に説明を行っていく。
2	小集団療育の必要性(放デイに向けてのフォロー体制)	当事業所が児童発達のみ施設であるため、年長児の3月で卒業を迎えてしまう。放デイに向けてフォロー体制の構築は急務と感じている。	小学校に向けて集団面での課題を持つ児童をピックアップして小集団での療育を行うなど、切れ目がない支援を検討していきたい。
3	地域での横の繋がりが少ない	都心部ということもあり、新しい事業所が続々増えているものの、中心となる事業所が少なく、どのような療育をしているのかの情報共有もできていない。	土地柄併用利用している児童が多いため、今後横の繋がりを作れるような連携の在り方を考えていきたい。